

## お知らせ

- 次回活動日；7月16日（月・祭日）集合：9時40分第一駐車場、主な活動メニュー：コナラ林実生選抜及び土壌調査、植物調査、きのこ調査、動物調査などの班活動。
- 植物観察会；福田洋先生指導の植物観察会、7月7日土曜日10時、県民の森管理事務所駐車場集合。参加希望者には連絡事項がありますので、上記事務局アドレス宛メール又は電話下さい。
- 夜間動物調査；7月15日（日）～16日朝活動開始時まで、参加希望者は上記アドレスに連絡下さい。

## 活動の記録

6月10日（日）雨後晴 参加12名

午前中大雨・洪水・雷注意報の悪天候を避け、県民の森事務所で相対照度測定やコナラ林更新について打合せの後、雨のなか大勢のサンデーオーナーで賑あう大山千枚田を見学、雨上がりを待って豊英島入林。昼食中にわか雨に遭ったが、活動開始とともに天候回復し、照度測定など予定の活動を行った。



雨宿りして真剣な討議

### ○相対照度測定；

この日は森の傾斜部を除く台地部を測定することとし、先ず全員で一巡して測定地点を選定、福島リーダーから測定要領説明ののち、4班に分かれて7地点を測定。開始後日射し強まり、手作りの特製日除けで計器の受光部を覆いながら。測定値を報告する美声がトランシーバー4台から森にこだまし、釣り人たちが聞き耳をたて、覗き込む一幕もあったとか。相対照度測定の目的、方法、測定結果とその意味等については次頁福島レポート参照。



照度測定実演

### ○マダケ林・ホテイ竹林調査；

マダケはタケノコの発生遅く幼タケノコ僅か3本。5月に設置したマダケ保護ネット内に1本、ネットの外に2本、いずれも食害を免れ無傷。ネットの外の2本は保護のため、竹柵及び枯木などで厳重に防護。ホテイチクのタケノコは5月から出ているが殆ど何者かに食べられている。犯人捜索のためこの日マダケ林に自動撮影デジカメを設置しました。



07年マダケ第1号

○植物及び食害；時間の都合で植物調査はできなかったが、森はヤマボウシの花盛り。イチヤクソウも花いっぱい。ただしイチヤクソウは何ものかに花を食われている。最近飢えているのかヤブタバコも殆ど首を喰いちぎられている。ヤマユリ保護ネット内のヤマユリは無事。オニシバリも赤い実がちらほら。この日最大の収穫はマダケ林とホテイチク林のボーダーにツチアケビを発見したこと。残念ながら食害に遭い蕾1個を残すのみで、全容姿を見ることは出来ないが。鹿のけものみちに位置することから犯人はニホンシカとみられる。



ヤマボウシの花盛り



イチヤクソウ



花を喰われた  
イチヤクソウ

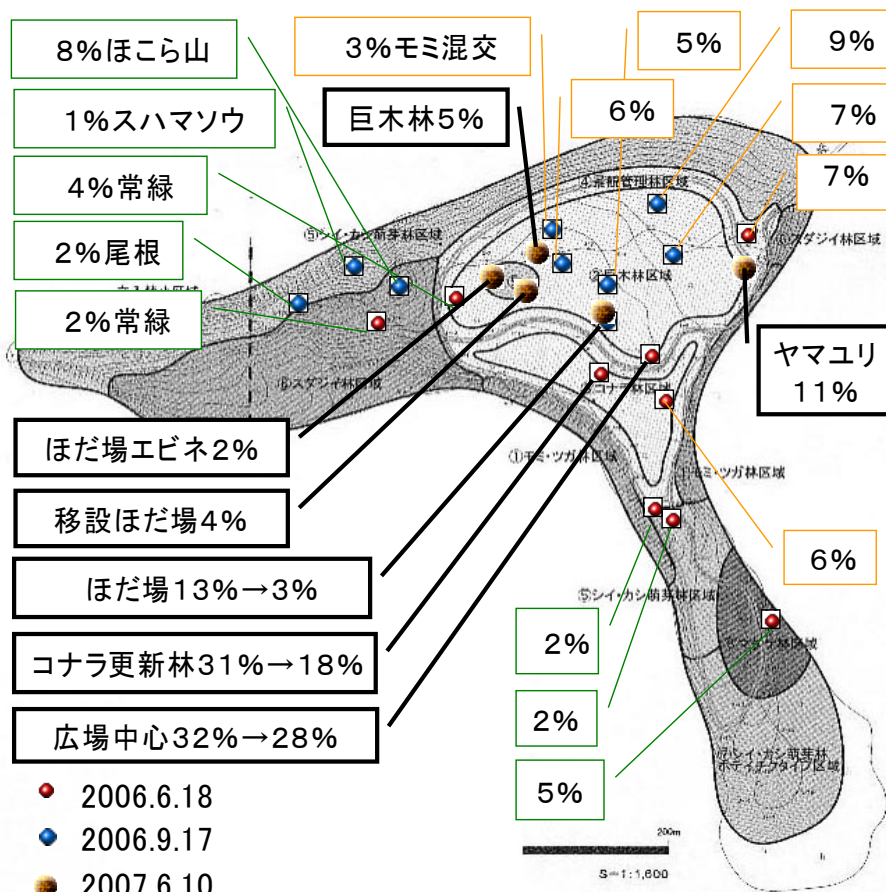


食害のツチアケビ

ツチアケビ；ラン科ツチアケビ属、山の木陰に生え腐生の菌糸に寄生する多年草、腐葉層の豊富な場所に自生。千葉県要保護植物 C、豊英島では02年調査で発見され、その後の調査で未確認となっていた。今回の確認で未確認種は通算76種となりました



ツチアケビ



- 目的：1 森林整備の結果としての林内光環境の把握  
 2 林床植物の管理を検討するための林内光環境の現状把握

調査日時：2007.6.10 13:30~14:30 (曇り)

使用機材：照度計 4 台，トランシーバ 5 台

調査方法：測定係 4 班と記録係 1 名で測定を実施した。1 班は、橋の中央付近で開放地の照度を測定し、2~4 班が分担して林内照度を測定した。測定は、記録係の合図で各班が同時に行い、1 地点あたり 10 回測定した。2 班はヤマユリ保護ネット横，巨木林 (2006 伐採箇所)，3 班は新しいほだ場 (エビネ)，移設ほだ場，4 班はコナラ更新林，広場横のほだ場，千年広場の計 7 箇所の測定を行った。測定にあたっては、照度計に直接日射し (直達光) があたると正確な相対照度が測定できないため、影ができるほど光が強くなった場合には日よけで受光部を覆って日射しの影響を受けないようにした。

結果：測定結果は図のとおり。最も相対照度が高かったのは千年広場中心で 28%であった。この値は昨年 6 月よりやや低下しているがその差は小さかった。次に相対照度が高かったのはコナラ更新林の 18%であり、これは昨年 6 月 (31%) に比べて大幅に低下した。低下の原因としては、区域内に残した高木や周囲の高木の樹冠が拡大し、ギャップが小さくなったことが考えられる。ヤマユリ保護ネット横は、林床植物が比較的良好に繁茂している箇所であり、相対照度は 11%と林内としては比較的高い値を示した。このほか、巨木林 (2006 伐採箇所)、新しいほだ場 (エビネ)、移設ほだ場は 2~5%と低く、昨年測定した常緑樹が混交した箇所に近い値を示した。なお、ほだ場の相対照度が 13%から 3%に大幅に低下しているが、森林の状況はほとんど変化していないことから、測定個所のずれが原因である可能性がある。

相対照度と森の整備：相対照度は林内の光環境を表す指標のひとつであるが、数値の変動が大きいために、それ自体を森林整備の目標とすることは適切ではない。また、林床植生に影響を与えている要因は、光環境以外にも土壌条件、水分条件、動物による摂食などが考えられ、目標とする森林の姿に誘導するためには何が必要かをよく検討することが大切である。